

関東 B-1グランプリが やってくる

9月10日(土)・11日(日)に開催が決定した関東B-1グランプリ in 行田。このコーナーでは、同グランプリを成功させるために、まちが一つになってこの大会を迎えるという意識を高め、市民の皆さんの協力体制を整えることを目的に、今月から同グランプリを開催する9月までの間、5回にわたりB-1グランプリを詳しく紹介していきます。

B-1グランプリニュース

関東B-1グランプリの
ロゴマークが正式決定!



「関東B-1グランプリ
in行田実行委員会」が発足!

2月22日、関東B-1グランプリin行田の開催により、全国へ向けて市の魅力を発信することで多くの来訪者を迎え入れ、市内産業および観光振興ならびにまちの活性化を図ることを目的として、「関東B-1グランプリin行田実行委員会」(大会会長工藤正司市長)が発足しました。実行委員会では、今後、市民ボランティアの募集や協賛金の協力など、オール行田で取り組む姿勢を盛り上げていきます。皆さんの温かいご支援とご協力をお願いします。

開催に向けたカウントダウンを開始!

開催PRの一環として、市内3カ所(市役所玄関、観光案内所、産業文化会館)にカウントダウン表示ボードを設置。開催に向けた機運も盛り上がりつつあります。



市内3カ所にカウントダウン表示ボードを設置

B-1グランプリ基本の「き」

B-1グランプリは、B級ご当地グルメを売ることを目的とするのではなく、ご当地グルメを通じて、自分たちのまちを知ってもらうために開催される大会です。したがって、ゴールドグランプリを受賞した優勝者は料理名ではなく、食でまちおこしをしている団体の名前が呼ばれます。

平成18年に青森県八戸市で行われた第1回大会では、出展団体は10団体、来場者数は17,000人でしたが、昨年の第5回厚木大会では、出展は47団体、来場者数は43万5,000人に膨れ上がりました。これほどまでに多くの人の注目を集めるイベントになったのは、B-1グランプリがB級ご当地グルメイベントの草分け的存在であることはもちろんのこと、各団体が自分のまちを愛し、その熱い思いで大会を盛り上げようとしているからです。さらに、開催地となったまちは、まちを総動員して大会を手作りし、出展者も「全員が主催者である」という自覚を持って、開催地と自分のまちの元気のために頑張っています。

「B-1グランプリ」を主催している(社)B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会(通称「愛Bリーグ」)に、「行田ゼリーフライ研究会」(通称「ゼリ研」)も加盟し、第2回富士宮大会から連続出場しており、行田を愛し、ゼリーフライの力を信じて活動しています。ゼリ研だけでなく、B-1グランプリの出展団体はすべてまちおこしのボランティア団体であり、店舗を営んでいるわけではありません。おらがまちのB級ご当地グルメを通じて地域を知ってもらい、自分たちのまちに足を運んでほしいと考えて活動しています。そのため、これらの団体の活動は「出店」ではなく「出展」と表記しています。

(行田ゼリーフライ研究会会長 松井秀二郎)



▶問い合わせ 関東B-1グランプリin行田実行委員会事務局(観光プロジェクト推進室内・内線378)



つけましたか?住宅用火災警報器